

CBDCを支える業務の全体像

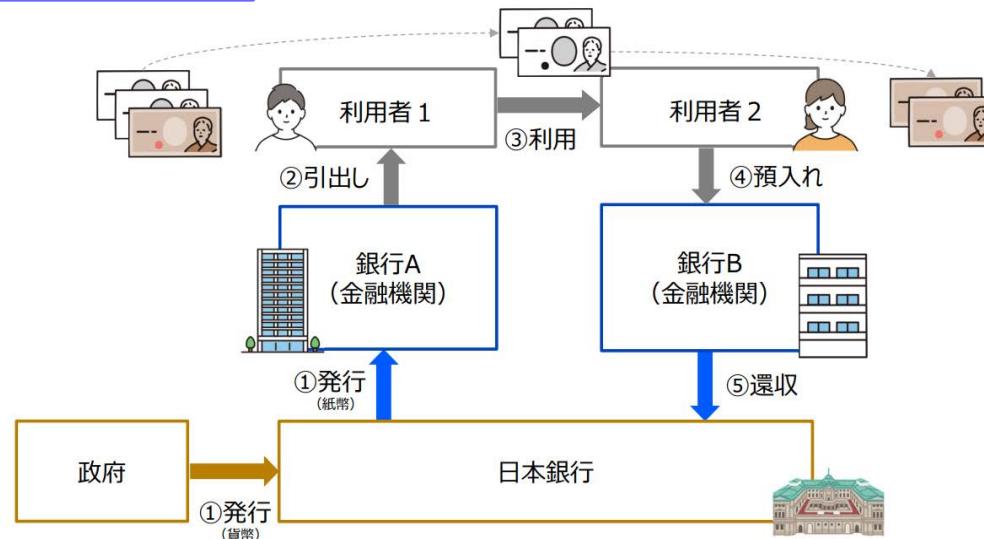
財務省

2025年11月18日

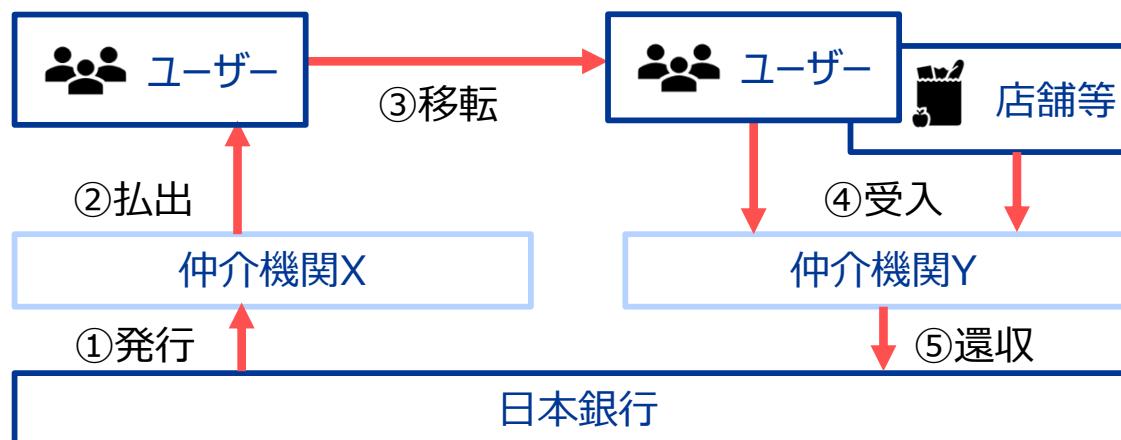
CBDCの発行・流通のイメージ

- CBDCの発行・流通は、現金と同様に、民間部門である仲介機関が日本銀行と利用者の間に立って授受を仲立ちする二層構造（間接型の発行形態）をとる。

現金の流通



CBDCの流通（イメージ）



(参考) これまでの議論

○CBDCに関する関係府省庁・日本銀行連絡会議 中間整理：P8～9

現在、現金の流通に関して、日本銀行は利用者と直接取引をすることなく、民間金融機関を通じて行っている。CBDCについても、現金と同様に、日本銀行が利用者の多様なニーズに直接対応することは現実的ではないと考えられることを踏まえれば、民間部門である仲介機関が日本銀行と利用者の間に立ってCBDCの授受を仲立ちするという「二層構造」（間接型の発行形態）とすることが適当であると考えられる。

また、仲介機関がCBDCの流通に関与することを通じて、日本銀行が取り扱う利用者情報・取引情報を必要最小限とすることができるとともに、仲介機関が利用者情報・取引情報を適切に利活用することを通じて、利用者の利便性の向上と仲介機関の収益機会の確保を図ることができる。こうした観点からも「二層構造」が望ましいと考えられる。

この場合、現段階で想定されるCBDCの発行・流通の基本的な流れのイメージは、次のとおりである。まず、利用者は、CBDCの利用に当たり、仲介機関との間で取引の開始に必要な手続きを行う。次に、利用者は、仲介機関に依頼することで、現金又は仲介機関に対する預金等と引き換えに、CBDCの払出を受ける。この際、日本銀行は、仲介機関の依頼に応じ、当該仲介機関の日本銀行当座預金を減額する一方で、同額のCBDCを発行する。その上で、利用者は仲介機関を通じて決済指図を行い、CBDCの移転が行われることになる。

○中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会 中間整理：P6

日本銀行を含む多くの中央銀行は、CBDCについては、中央銀行と民間部門による「二層構造」を通じて発行されること（間接型の発行形態）が適当と考えている。

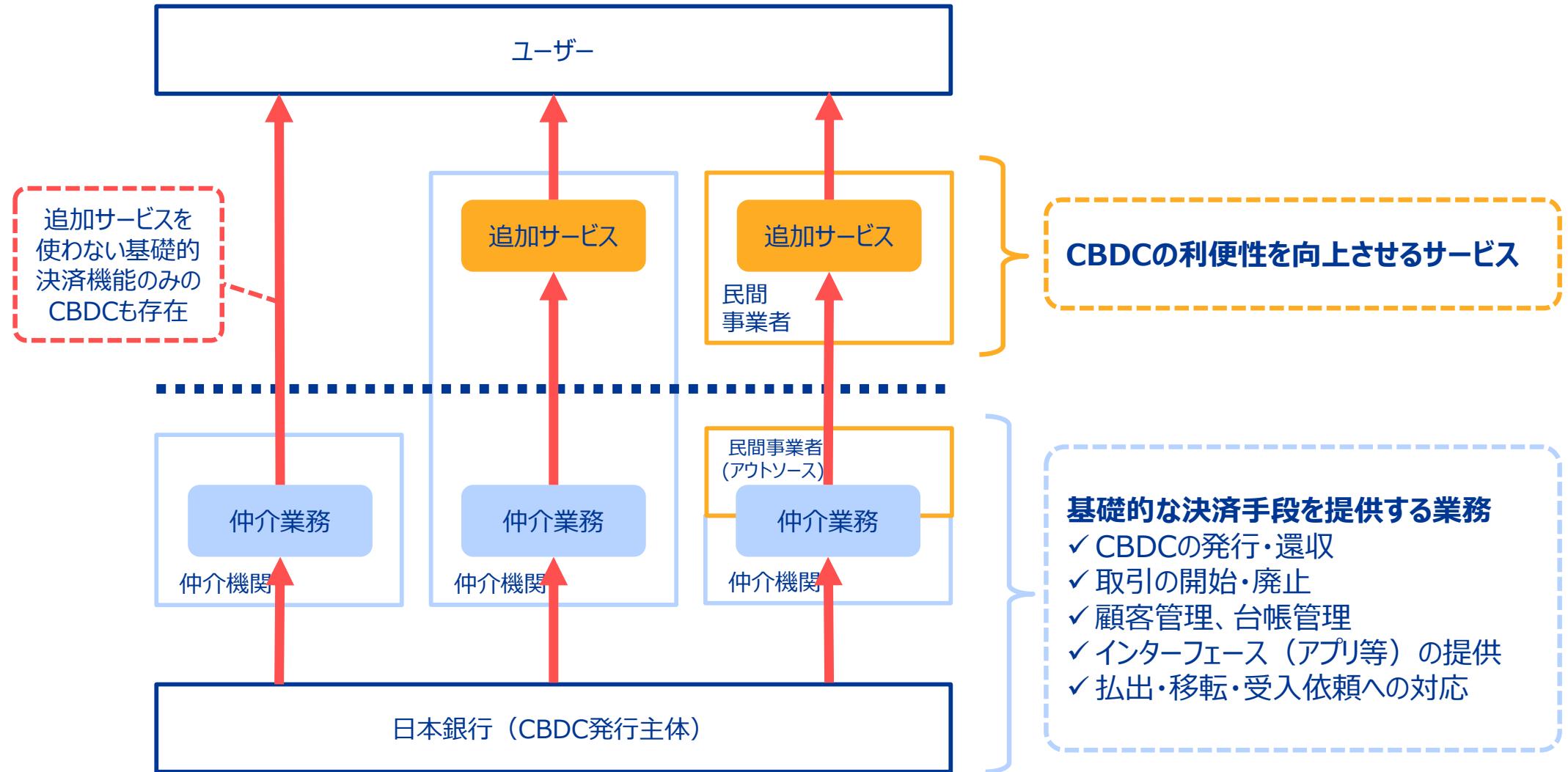
日本銀行は、これまで個々の企業や個人と日常的に取引した経験はなく、各ユーザーの多様なニーズに、逐一きめ細かく対応していくことは難しいと認識している。このため、日本銀行としては、CBDCという基礎的な決済手段を世の中に提供することに力を注ぎ、一方で、民間部門には、全国のユーザーにCBDCを届ける「仲介機関」としての役割を担ってもらうことが適切と考えている。こうした役割分担を通じて、民間部門が有する経験やノウハウが活用され、CBDCシステム全体の安定性や効率性が高まると考えられる。

なお、冒頭述べたとおり、CBDCを発行するのは日本銀行であり、仲介機関が自らの負債としてマネーを発行する訳ではない。「間接型」とは、銀行を始めとする仲介機関が、日本銀行とユーザーの間に立ってCBDCの授受を仲立ちするという意味である。

（中略）、仲介機関の具体的な業務としては、ユーザーがCBDCの利用を開始する際の手続や、ユーザーからの依頼を受けた預金等と引き替えにCBDCを受渡すことなどが想定される。

CBDCを支える業務の全体像

- CBDCは日本銀行と民間事業者がそれぞれ提供する業務が積み重なることで成り立つため、安定した発行・流通を確保するためには、各業務を担うプレイヤーが持続的に参加できるエコシステムの存在が重要。
- エコシステム全体のインセンティブ設計を意識しつつ、業務のあり方について検討する必要。



(出所) 「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会 中間整理」、「CBDCに関する関係府省庁・日本銀行連絡会議 中間整理」より作成。

次回以降の論点

▶ 次回以降の幹事会では、諸外国の事例を参考にしつつ、これまでの議論を踏まえ、主に以下の論点について検討を進めたい。

